

# いま地球は病気で ～地球温暖化と食と異常気象～

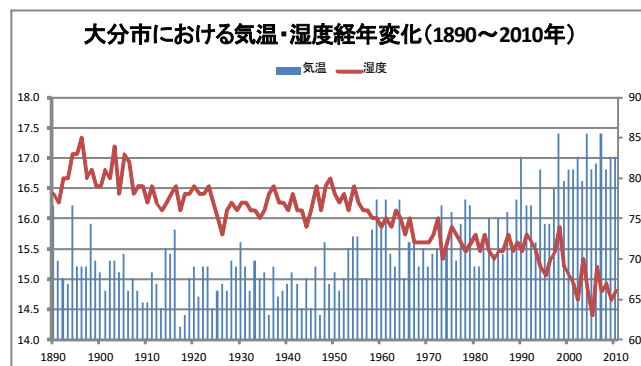
気象予報士・環境教育アドバイザー  
花宮 廣務

## 1 IPCC（国連気候変動に関する政府間パネル）から特別報告 2018年・2019年

- ① 温暖化の危機を「再び警告」
- ② 「異常気象」が異常でない時代到来??
- ③ 水・食糧が危機的状況になる???

## 2 地球の健康診断とその結果

大分市 約 1.8°C/100年間  
地球全体 約 0.72°C/100年間  
日本 約 1.19°C/100年間



	1901～10	1951～60	2001～10
気温	15.0°C	15.5°C	17.0°C
湿度	80%	76%	66%

1.8°C/100年

## 3 地球温暖化の大分県内での実態・影響

- ① 異常高温・短時間豪雨の頻発
- ② サクラの開花・満開

大分市 50年間で約8日早くなったなど

- ③ 農業 高温障害（乳白米・着色不良等） 南方系の害虫等の侵入・北上
- ④ 漁業 海水温上昇でヒラメの養殖ピンチ 南方系魚の北上
- ⑤ 絶滅危惧種の増加 熱中症・感染症等の増加懸念

## 4 自然との共存 1960年以前

- ① 「身土不二」 雨が食物・気質・身体をつくった
- ② 地産地消・バツカリ食 他の動物とおなじ四里四方から食物を集める

## 5 自然との乖離 「安全・安心」を忘れ 「利便・効率・成長」の論理優先

- ① WMO 温室効果ガス年報 (H30. 11. 22) 温室効果ガス濃度 観測史上最高を更新  
利便性の追求（大量生産・大量消費） 結果・・・災害の拡大
- ② 雨をキライ、緑をなくし、コンクリーで固め、自ら季節と五感を放棄した日本
- ③ 飽食日本 食糧約63%を輸入 食べられる食材・残菜の廃棄量（640万ト/年）

## 6 温暖化を抜きに防災を語るな 防災を抜きに温暖化を語るな

- 夜中から明け方の雷に要注意 ○自宅周辺の水路や崖などの様子に注意
- ① 積乱雲（雷雲）が同じ場所で繰り返し発達、2～3時間周期で短時間豪雨
  - ② 災害発生の目安：降り始めから100ミ以上で始まり 200ミ以上で急増
  - ③ がけ崩れ ・崩壊土砂の到達範囲は、崖高のほぼ2倍以内で収まる  
・前兆 水が急に湧き出す 湧き出す水が濁る 小石パラパラ落ちる
  - ④ 出水時の避難の心得 ・運動靴で ・単独行動はダメ ・先頭は杖等で安全を確認
  - ⑤ 出水したら 無理をして避難所に行くのでなく  
頑丈な建物の2階以上の高い場所に緊急避難を
  - ⑥ 車で冠水した道路は絶対に走るな（危険）

## 7 防災情報を待つのでなく 積極的に入手を

例 スマホで「大分地方気象台」を検索し「危険度分布情報」

- 土砂災害 2時間先まで予測
- 洪水 3時間先まで予測
- 雨雲の動き 1時間先まで予測
- 今後の雨 15時間先まで予測



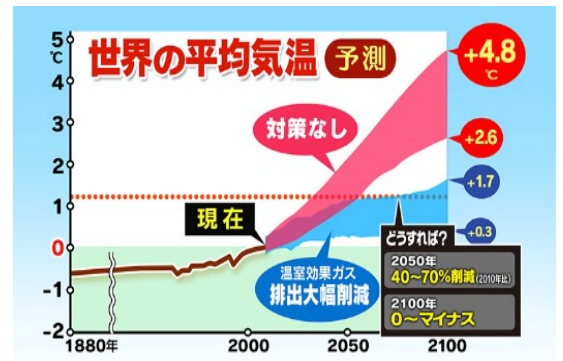
### 車は水に弱い (車での避難は、原則ダメ)

冠水した道路は走らない (10%でブレーキの利きが悪化)  
 マフラーが浸かる 排気ガスが室内に充満中毒死  
 水位50%以上 流れがあるような場合 車は浮き流される  
 水位60%を超える ドアが開かなくなる場合がある(逃げ遅れ)



## 8 IPCC 第5次評価報告書

- ① 現状のペースで排出増が続く  
2.6~4.8°C上昇 海面 63cm 上昇
- ② 大胆な削減対策を取る  
0.3~1.7°C上昇 海面 43cm 上昇
- ③ 今後 拡大が懸念される現象  
異常気象の頻発・猛烈な台風  
沿岸域での洪水・高潮被害の増加  
水資源不足・食糧不足の深刻化  
生物の絶滅 熱波、感染症等増加  
海洋の酸性化 etc



## 9 私たちにできる 必要とされる対策

- ① 家庭で・・・「もったいない」の積極的な実践  
地産地消、残菜削減、節電、節水、  
4R (断る・減らす・再利用・再資源化)
- ② 防災対策 自助・共助・公助  
ソフト (防災情報の利用等) の充実  
非常持ち出し (自分好きなもの)  
非常備蓄 (ローリングストック) **ガソリン満タン**
- ③ 「植育」と「食育」への理解と実践・・・みどり豊かな県土  
森林整備、田んぼの復活、地産地消の推進  
山・田圃がしっかりする → 温暖化にブレーキ → 土砂災害・洪水の軽減  
木々は光合成 → 二酸化炭素固定・酸素の提供・水の涵養



病室に季節を届けて      病気でくるしむ地球の看護もお願い